

米国北西部 大量のサクランボは序盤の課題を克服して終了

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月13日

北西部のサクランボシーズンは、小売の早期開始にもかかわらず、この地域として史上4番目に多い収穫量を記録して成功裏に終了した。業界団体である北西部サクランボ協会によると、この地域の果実は収穫シーズン終盤まで高い品質が維持された。さらに、輸出量は前年比4%以上増加した。

予期せぬ幸運 しかし、シーズン序盤の展望は明るいとは言えなかった。この地域を襲った熱波により例年より早く大量に収穫され、予定より早く市場に出回った一方、小売価格の調整はなかなか進まなかった。

通常であれば、供給過剰と価格の暴落につながる状況であったが、幸運の女神は思いがけず生産者の行く手に微笑みかけた。北西部産サクランボは早くも6月に店頭に並び始め、生産者はその大量の収穫物がカリフォルニア州産と重なることを懸念していた。しかし、カリフォルニア州産の供給は700万箱～800万箱という業界の予想に届かず、北西部産サクランボはちょうど供給の空白を埋める形で市場に投入された。

同協会は、輸出量を20ポンド箱換算で2,360万箱と発表しており、当初予測の2,250万箱を4.6%上回った。カナダは今季の全出荷量の10%を占めて北西部産サクランボの主要輸入国としての地位を維持し、中国、台湾、韓国、メキシコがそれに続いた。

韓国 ナシ輸出が悪天候による不作の影響から回復

[FreshPlaza](#) 2025年10月13日

韓国の農産物輸出の拡大は、安定した生産量の確保が依然として前提条件である。需要が強く、販売ルートが整っていても、国内生産量が不足すれば輸出能力は制限される。ナシはイチゴと並び、海外市場で韓国産高級果実として認識されている。バイヤーからは、「送ってくれた分はすべて販売できるので、十分な量を確保してほしい」といった数量追加の要望が相次いでいる。

昨年は春の寒波により霜害が発生し、秋のナシの収穫量が大幅に減少して輸出量も制限された。韓国ナシ輸出連合会(非営利的な会社法人)のキム・ギルドンCEOはオーストラリアのシドニーで開催されたFFA国際食品展示会の際に、「米国の大手バイヤーからは『そちらから送れる分はすべて吸収できるので、送れるだけ送ってほしい』という強い需要まであったが、昨年は収穫量が少なく十分な出荷ができなかった」と語った。

韓国税関のデータによると、2024年のナシの輸出額は5,883万ドルで、前年比21%減となり、2015年以来の最低を記録した。輸出量は前年比31.7%減の1万6,679トンで、2013年以来初めて2万トンを下回った。霜害、日焼け、裂果が品質に影響を及ぼし、国内価格の上昇も輸出可能量を減少させた。在庫は年末前に尽きた。オーストラリア向けの輸出も急減し、2024年は4万8千トンで前年の8万2千トンから大幅に減少した。

今年の収穫は平年並みに戻ると見込まれる。韓国農村経済研究院(KREI)は、2025年のナシ生産量を前年比13.6%増の20万3千トンと予測している。栽培面積は9,361ヘクタールで前年比0.6%減となるが、10アール当たりの収量は14.3%増の2,166kgと見込まれている。生産量は平年比6.2%増と見込まれる。

春の寒波と熱波の影響で変形果の割合が増加すると見られている。KREIの担当者は、「サイズと形は昨年より劣るが糖度は良好である」と述べた。シソ品種の国内市場への入荷量は前年比14.5%増となり、卸売価格は15kg当たり約29.10ドルで前年比21.4%の下落が見込まれる。収穫期の頻繁な降雨により表面に傷がつき、貯蔵性が低下する可能性がある。KREIの担当者は「熱波の際にハダニやカイガラムシの発生が昨年より多かった。防除が不十分な農場では流通や貯蔵の段階で腐敗が多発する可能性がある」と警告した。

生産者は早期出荷を進め、供給量の吸収先として輸出に注力する見込みである。農村振興庁(RDA)は、熱波による被害を軽減するために収穫時期の調整を推奨している。RDAは、長期的には「マンファン」等の耐暑性及び耐病性に優れた新品種の普及を進めており、それらは7カ月以上の低温貯蔵が可能である。キムCEOは、「ナシ輸出の50%以上が米国に集中しており、米国の関税障壁も克服すべき課題である。オーストラリア、ベトナム、台湾、ヨーロッパなど、多様な市場の開拓が必要である」と述べた。

出典: ChosunBiz